

[私たちを取り巻く情報]

## どこまで信じる？ ネット情報

社会と情報監修・講師

中橋 雄

人にわかりやすく何かを伝えるには、情報を取捨選択する必要があります。何かを表現するということは、何かを表現しないということですから、情報には必ず偏りが生まれます。情報が表現・発信される仕組みやネットの特性を学び、情報の信憑性を判断できる能力や情報発信する際に偏りを少なくできる能力を身につけましょう。

学習前に  
調べておこう

情報の偏り、情報の信憑性、情報操作、メディアリテラシー

### 情報の偏りって？

- テレビやネットなどの情報に限らず、人が何かを伝えるためには、必ず情報を編集する必要がある。
- 情報が編集される際に、発信者の価値観や意図などが反映されるため、多かれ少なかれ何らかの偏りが生まれる。
- 情報の偏りは少なくなるように努力することができ、ニュースなど公共性の高いメディアを制作している人は、その努力をしている。

### 情報の信憑性

- 受け取る情報に間違いやうそが含まれていないかどうか、よく考えて判断することが大切である。情報を信用できる度合いを情報の信憑性という。
- 複数の人が情報をチェックして発信しているマスメディアと比べて、個人でも情報発信できるインターネット上には、信憑性の低い情報が多いと考えられる。
- ある事柄を直接知っている人や、それを調べた人が発信している情報を一次情報と言い、それを編集してまとめた情報を二次情報という。

### 情報の意図を読み取る

- 発信者には伝えたいと思っていることがあるため、情報に含まれる意図やメッセージを読み解く必要がある。
- 発信者の都合が良い部分を誇張したり、悪い部分を意図的に省略したりして、大多数の人の意見や考え（世論）を操作することを情報操作という。
- メディアの意味と特性を理解した上で、受け手として情報を読み解き、送り手として情報を表現・発信するとともに、メディアのあり方を考え、行動していくことができる能力をメディアリテラシーという。

情報社会に暮らす一人として自分がすべきことを考えてみよう。

多くの人は、情報を受け取る機会のほうが多く、発信者であることをあまり意識していない。しかし、リツイートすることやニュースサイトにコメントを書くこと、「いいねボタン」を押すことも情報発信であり、社会に影響を与えている。人に迷惑をかけるような情報発信・情報の拡散をしないように気をつける必要がある。

その一方、適切に情報を判断して、うまく伝えることができれば人の役に立つことができる環境があることは、素晴らしいことでもある。望ましいメディアと情報社会のあり方を考えて、人のために自分ができていることを考えてみよう。

